



雪上に 臨元小 飛び交う歓声

親子でふれあい 雪上運動会

臨元小学校（飯田晋昭校長、児童数九六人）では二月十日、雪上運動会を行い、応援にかけつけた父母らと一緒に、みかん拾いやそり競技を楽しみました。

雪上運動会は、室内にこもりがちな冬期に屋外で運動することによって、運動意欲を高め体力の増進をはかる。また、集団意識を高め、公正、協力、責任など社会生活に必要となる態度や能力を養い、運動の生活化をはかることを目的としています。

雪上運動会には吹雪に見舞われたが、同校裏のや山スキー場で予定どおり行われました。午前九時から開会式が行われたあと、ミニスキー大滑降、そり競技、大回転などのほか、みかん拾い、そり競技には父母も参加し、子供たちから



吹雪なんて吹つ飛ばせ！

元気に運動会を楽しむ臨小健児



拍手や声援が飛んでいました。昼食には、おにぎりとお汁が準備され、和やかな中で親子のふれあいを深めていました。



赤組がんばれ／白組がんばれ！
大きな声で応援合戦

今月の主な記事

- 歴史からみた村づくり……………2
- 連日の降雪に悲鳴
豪雪対策本部設置……………3
- 十三っ子まつりや
スキー大会……………4
- 村民室内運動会……………5
- 健康教室開催……………6～7
- 医療機械器具充実……………8
- おしらせ……………9
- 新農業委員決まる……………10

特産品の開発と

「縄文の里づくり」を提唱

市浦村老人クラブ連合会（成田永吉会長）では、二月九日午前十時から市浦村「ミヨ」

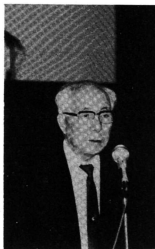
講演会は、昨年十二月九日から同連合会で開催している「市浦村ことぶき大学」の一環として開いたもので、講師には青森大学の盛田稔学長を招きました。

青森大学盛田学長が講演

歴史からみた村づくり

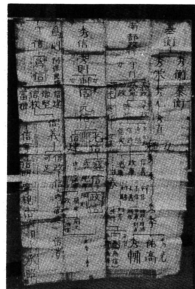
ことぶき大学ではこれまで「身近な法律」「村長と語る会」「風絵づくり」など、独自の学習計画に基づき、講座実技を実施してきましたが、今回の講演会は、会員だけでなく、一般市民にも呼びかけました。

盛田学長は講演の中で、津



青森大学 学長 盛田 稔氏

軽地域の歴史的背景を踏えた南部藩との係わりや、津軽藩の系図等について詳しく説明したあと、歴史からみた市浦の村づくりについて次のように述べました。



南部・津軽藩の系図を説明しました

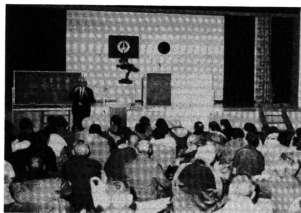
この日は、いろいろな行事が多く、講演会への出席者は少なかつたが、村づくり、産業おこしの講演に耳を傾け、真剣にメモをとる受講者の姿がみられました。

「都市に限らず地方においても、こゝまで文化が向上してくると人間には原始回帰の傾向が強まってくる。村ではいま、安東氏に係わるふるさとづくりを進めているようだが歴史と観光を結びつけることは好ましいこと。それに一歩進めて安東と結びつけた「縄文の里づくり」を提唱したい。縄文の里づくりを想定した場合「堅穴住居をたくさん造って都会の人たちに縄文時代の生活体験をさせる。陶芸を生かした縄文焼、ランプなどでの生活、塩づくり、魚、シジミ、木の葉の採取等、海と山と湖での生活の係わりを

体験学習を通じて、十分期待できるのではないか。土地、地下、空間など未利用資源を活用した空間利用も、今後の課題である。そして旅行者にとっては何としても食べ物が魅力であることから、牛肉

山菜、シジミ、サケなど豊富な資源を生かした地域の特産品加工品を開発すべきだ。十三湖に近年多くなったといわれる雷魚も大変美味な魚であるから、特産品のメニューに加えてみるのも方法である。また、「村づくり、産業おこしには、これだという決め手がない。地域内にあるもの未利用資源を活用するなどアイデアを出しあい、村民が一体となって取り組むことが必要だ。そのためには、人材養成も大きなカギとなる」と結びました。

「村づくり、産業おこしには、これだという決め手がない。村民が一体となって実行してみることだ。」講演会には約60人が集まりました。



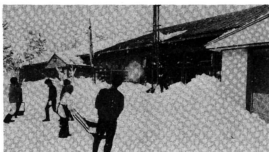
「村づくり、産業おこしには、これだという決め手がない。村民が一体となって実行してみることだ。」講演会には約60人が集まりました。

日曜日に出校し

校舎の除排雪作業

県立金木高等学校相内分校

県立金木高等学校相内分校でも二月九日の日曜日、教師と生徒が総出で校舎の屋根に上り、雪おろしをしました。相内分校では現在三十一人の生徒が学んでいますが、ゆとりの時間を利用して、これまで海辺清掃や国道三三九号のゴミ回収など、地域内の奉仕活動を実施しています。



それぞれ分担を決めて、全生徒総動員を
かけ、除排雪をしました。

スピードと テクニックを競う 相小でスキー大会



競技の順番を待つチビっ子スキーヤーたち

十三っ子まつり

かるた・凧あげ大会

十三小学校(沢田茂隆校長、児童数九十四人)の「十三っ子まつり」は、二月十三日午前九時から全児童が参加して開かれました。

晴天に恵まれたこの日は、相撲大会、かるた大会、もちつき大会、凧あげ大会に分けて実施しましたが、これを称して、「十三っ子まつり」と名づけました。

十三っ子まつりは、古くから郷土に伝わる遊びや行事を体験させながら、その良さ、

楽しさを理解させるとともに、学校行事に積極的に参加する態度を養おう」と開いたものです。

全児童による相撲大会のあと開かれた「かるた大会」では、一年から三年までの児童は「郷土かるた」、四年から六年までは「百人一首」で、それぞれ紅白に分かれて勝負を競い合い、①倉庫なつかし津軽の米が、山と積まれた五所川原、②今年も来た来た御神の使い、雪の白鳥群れ



6年生が中心となって行ったもちつき大会。

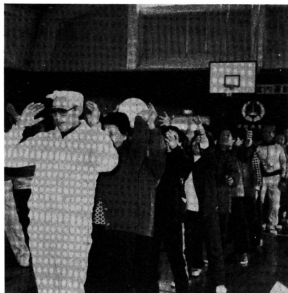
相内小学校(原田良二校長、児童数一四六八)恒例の校内スキー大会は二月九日、吉野スキー場で開かれました。野球やミニバスケットなどのスポーツ活動が盛んな同校は、冬のスポーツにスキーをとり入れ、毎日グラウンドで走るスキーや吉野スキー場を利用して体力向上をはかっています。特に吉野スキー場には特設リフトが、地元スキー愛好者によって整備されており、地区住民の利用も多く、

親子スキー場として人気があります。晴天に恵まれたこの日も、朝早くから父母やスキー愛好者がスキー場に集まり、スキー場の点検やテントの準備、たき火などに協力。午前十時から、ミニスキー、そり、大回転、アルペン直滑降などの競技が行われ、チビっ子スキーヤーらは、父母の声援を受けながら、日ごろの練習ぶりを発揮していました。

遊ぶ」読みあげる先生の声に「ハイッ」と、元気よく礼をとりあっていました。

このあと体育館で「もちつき大会」を行い、小学生生活が残り少なくなった六年生全員が、父母らと一緒に「ヨイシヨ、ベッタン」のかけ声にした。

合わせ、交互にキネを振り、もちの作り方を学びました。午後からは、五、六年生が二日間かけて作り上げた凧をグラウンドに持ち込み「凧あげ大会」を行い、十三っ子の積極的な心意気をみせていました。



お年寄りに人気のあるボール送り競技

煎餅食い競技



お母さん、がんばって!!



子供たちの輪投げ競技

力の入る大一番、綱引き競技



寒さを吹き飛ばそう

室内運動会で快い汗

二五〇人が親ぼく深める

市浦村体育協会(島津典明会長)主催の第五回村民室内運動会は、一月十九日B&G財団市浦海洋センターで開催されました。
村民室内運動会は、午前九時から開式が行われ、団体各階別にチーム編成した約二百五十人の選手が入場行進、島津典明大会長が「村民生三十周年を迎えた節目の年、活動を通じて、子供からお年寄りまで健康な体と生きがい

を求め、明るい地域社会の形成をはかろう」とあいさつ。市浦村教育委員会の白川行雄委員長が「住民相互の親睦を深めるため、和気あいあいの中で競技を進め、ケガのないよう楽しんでいただきたい」と、激励しました。
このあと、参加選手を代表して佐藤雄雄選手(相内)が「スポーツを通して村民相互の親睦を深めるとともに、競技種目に積極的に参加し、楽しく競技をします」と力強く

宣誓、九時三十分から競技に入りました。
競技種目は、小学生を対象にしたドッチボール、輪投げ、インデアカ、綱引き、一般婦人を対象にした風船送り、バスケットリレー、煎餅食い、むかで競走、綱引き等、お年寄りを対象にした輪投げ、ボール送り、玉入れ、ゲートボール等、気軽に楽しく参加できる種目がならべられ、選手らは、大きな声援を受けながら寒気の中、快い汗を流していました。



もう少しだ、がんばれ!!応援にも熱が入る

成人病予防、食生活のあり方は健康教室

磯松地区で開催

老人保健法では、医療以外の事業として、四十歳以降の健康づくりと成人病の予防、早期発見、早期治療などを目的として健康手帳の交付、健康教育、健康相談、健康診査、機能訓練、訪問指導等の保健事業を行っています。村ではこれら事業の中から「健康教育」をとりあげ、一月十七日から二十五日まで、六回

にわたって「健康教室」を開いています。この教室は四十歳以上の人とその家族を対象に医師、保健婦、栄養士らを講師にカリキュラムを作成、成人病予防の日常生活の心得、食生活のあり方などを学びます。今回の「健康教室」は、磯松公民館で開かれています。

高血圧、脳卒中を克服しよう

一月十七日開講した「健康教室」には、磯松地区から三十人の受講生が出席し、午前十時から開講式を行い「健康教室」の進め方を話し合いました。

このあと、市浦診療所の明彦医師を講師に「高血圧、脳卒中」について勉強しました。

脳卒中は、古くから日本に多い病気で「脳溢血」「中風」「中気」「あたる」「かすった」等といわれていますが、本村における死亡率は、心臓病、がんに次いで高く、昭和六十年には六人が脳卒中で亡くなっています。

森医師は講話の中で「脳卒中は、脳の血液循環が急に、あるいは徐々に障害され、脳に血液がいかなくなると、脳細胞が酸素不足や栄養障害を

開講式のと、森医師の講話がありました。



起こし、おもに意識障害と運動障害を起こす病気で、寝たきり老人とか、ボケ老人の約七割が「脳卒中後遺症」といわれています。高齢化社会を迎えつつあるわが村にとって、脳卒中予防は重要な課題です。多くの研究者の研究成果と全国各地の公衆衛生活動によって、脳卒中は予防できる。ことが明らかになっています。高血圧の人は減塩食にすると血圧が下がりますが、一日か二日では効果がありません。継続することが肝心です」と、高血圧を進行させる要因や規則正しい日常生活、食生活等注意すべき点を詳しく説明していました。

本村の死因別死亡数

	59年					60年				
	総数	相内(相)	太田	磯松	十三	総数	相内(相)	太田	磯松	十三
心臓病	9	2	1	3	2	12	7	1	4	4
脳卒中	8	2	1	1	3	2	2	2	2	2
肺炎	8	3	1	1	3	6	2	1	1	3
その他	5	3	1	1	1	1	1	1	2	2
合計	8	2	1	2	2	4	1	1	2	1
合計	32	12	4	7	8	34	10	3	4	7

病人食の作り方 調理方法に気配りを



このぐらいの場分であつたといひです。病人食の作り方の後、試食会を行いました。

第三回目の「健康教室」は一月十三日開かれ、市浦中学校の三戸由美栄養士を講師に招き、調理実習を行いました。

調理実習には、二十三人の受講生が出席し「病人食の作り方」を学びました。

今回の調理実習では、朝食用として「小豆がゆ」「みそ汁」「しそ巻」「おかか煮」「おろし煮」「きんぴら風煮」「みそ汁」「漬物」、夕食用には「全かゆ」「煮込み」「茶わん蒸し」「おひたし」の献立を準備、朝早くから調理に腕ふるい、昼食を兼ねて試食会を実施しました。

試食会のと、三戸由美栄養士は「料理はたんに栄養バランスがとれていればよいというのではなく、寝たきりのお年寄りは健康な人に比べさまざまな障害をもっている。介護する側が調理方法、食器への盛りつけなどに気を配り、お年寄りに食事を楽しんでもらえるような工夫も必要である」と、調理方法や気配り等についてのアドバイスをしました。

健康の確認に利用者急増

**市浦診療所で
医療機械器具を充実**



胃カメラの利用者が急増しています



腹部超音波診断装置で検査する森医師

本村は、昨年三月一日、浅理克己歯科医師、四月一日には市浦診療所長として森明彦医師が着任し、地域医療に取組んでいます。

村では医師着任と合わせて

医療機械器具や診療施設の充実を図り、医療サービスに努めています。昭和六十年度の事業として「胃・十二指腸内視鏡(胃カメラ)」、腹部超音波診断装置(血液・生化学検査機械)等を購入整備しました。

学検査機械」等を購入整備しました。

これら医療機械器具の購入は、年金積立金還元融資制度を利用したものです。

昭和六十年で、市浦診療所に整備された医療機械器具の主なものをお知らせします。

胃・十二指腸内視鏡(カメラ)

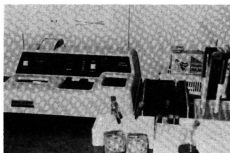
直径(太さ)は大人の小指程でやわらかく以前のカメラほど苦痛なく、食道・胃・十二指腸まで観察できます。

胃潰瘍、十二指腸潰瘍の診断や治療経過の観察にかかせなく、また悪性のものかどうかの生検(精密検査)もできます。

県内にある胃カメラでは一番細いカメラの一つです。

腹部超音波診断装置

腹部にゼリーを塗り超音波によって肝臓・腎臓・脾臓などを観察でき、これらの臓器の疾患(たとえば肝硬変・肝炎・脾炎・胆石等)の診断に役立ちます。特徴として痛みや苦痛なく検査をうけられます。なおこの機械で心臓の検査(例として弁膜症・心不全)もできます。



血液・生化学検査機械

血液を取って糖尿病・貧血・肝臓病・痛風・高コレステロール血症・リウマチなどの診断に役立ちます。この機械のなかつた頃は五所川原まで外注し四〜五日間かかっていたのが、現在は診療所で検査するので翌日には結果がわかります。

いま、あなたは健康ですか

診療所で健康診断を

これらの医療機械器具は、成人病の検査や早期発見、早期治療に役立っていることから「健康診断をする意味からも大いに利用してほしい」と呼びかけています。

年金積立金還元融資施設

臨元浄水場が全自動化に

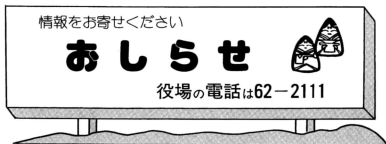
地震・災害などでも安定供給

昭和五十九年、六十年で二カ年繰上事業を進めていた簡易水道施設改良工事がこのほど完成し、全自動化による臨元浄水場が再スタートすることになりました。

臨元浄水場は、昭和四十八年に建設され、地域住民に豊富な水を供給していましたが、施設、設備の老朽化により、断水などのトラブルが多く、利用者にはたいへん不便をかけていました。

この工事が完成したことにより、臨元浄水場が全自動化されたほか、地震災害などの際にも、安定した水が供給できることになりました。





市浦村史第1巻発行 好評発売中

一冊 3,500円

村では、通史の発刊を計画して、作業を進めていきましたが、このほど第1巻が発刊されました。

第1巻は、本村の遺跡からはじまり、蝦夷の世界までが書き綴られています。

あなたの書棚に郷土愛の財産として一冊お備えください。

※頒布価格 一冊3,500円

(郵送料300円は別)

※申込方法

住所・青森県北津軽郡市浦村大字相内、市浦村教育委員会、村史編さん委員会

(〒037-04 電話0173@3751)

※郵送希望者は、現金書留にて、3,800円同封のうえお申込みください。

教育相談所開設

市浦村教育委員会

校内暴力、いじめなどによって県内では、全国的にみても類例のない悲しい事件が発生し、県民、関係者に大きなショックを与えています。

このような悲劇を二度と繰り返さないため、関係機関団体等はもちろん地域ぐるみで対処しているところです。

市浦村においても、大小にかかわらず、悩みを持っている方が多いと思われます。

市浦村教育委員会では、これらの悩み事を少しでも解消するため、「教育相談の窓口」を開設しています。

自分1人で悩んでいるより他人に話すことにより悩みは半減します。胸にあるくもりを晴らすためにも、教育相談の窓口をご利用ください。

電話、手紙による相談にも応じていますので、気軽にご相談ください。

※相談の対象

- 子供の問題で悩んでいる父母。
- 自分のことで悩んでいる児童、生徒。

※相談の内容

- 子育てで悩んでいること。友だち関係で悩んでいること。自分のことで悩んでいること等、教育全般について。

※相談員

高橋精一(協元公民館長) 越野清志(児童民生委員) 葛西安十郎(教育次長) 工藤明(社教主事) そのほか教育委員会職員。

※相談の方法

- ◎面接方法、毎週火曜日(午前9時から午後4時まで)教育相談所(市浦村コミュニティセンター内)

◎電話相談、教育相談所

(電話@3751番)

- ・平日…午前9時から午後4時まで。
- ・土曜日…午前9時から午前11時まで。

◎文書相談

※送り先…市浦村教育委員会「教育相談所」宛まで。

※相談内容は固く守りますので、安心してご相談ください。

県立金木高校相内分校生徒募集

高等学校の定時制課程は、年齢や職業を問わず、働きながら高等学校教育を受けたい方々のための学校です。学習内容はもちろん、卒業資格も全日制課程と同じで、卒業後は専門学校や大学に進学することもできます。

県立金木高等学校相内分校の入学案内

- 授業料は、年額6,000円で全日制の約12分の1です。なお入学科

善慮ありがとうございます

◎市浦中学校(長谷川良幸校長・生徒会長葛西央倫)ではこのほど、市浦村社会福祉協議会を訪れ、市村祭のバザー収益金一万一千七百九十五円を寄附しました。

◎市浦村観光協会(工藤章二郎会長)でも、去る二月十五日開催したチャリティカラオケ大会の益金二万三千六百四十九円を寄附しました。

- は2000円です。
- 毎月の納付金は、授業料を含めておよそ2,700円ぐらいです。
- 教科書は、無償で支給されます。
- 出願者は所定の入学願書に必要事項を記入し、青森県証紙(400円)を添えて、調査書とともに出身中学校から提出してください。
- 出願期日 昭和61年2月14日(土)から2月20日(金)まで(日曜日を除く)
- 学力検査 昭和61年3月12日(木)午前8時45分から午後2時10分まで筆記試験を実施し、その後全員に対して面接を行います。
- 合格者発表 昭和61年3月18日(木)9時にそれぞれ出願した学校で発表します。
- 募集人員 男女40人
- 定員に満たなかった場合は再募集を行います。
- 入学願書受付 昭和61年3月20日(金)から同年3月24日(火)まで
- (イ) 面接等 3月25日(水)10時
- (ロ) 合格者発表 3月27日(金)9時
- 学校生活と学習のしかた
- (イ) 授業は、ふつう午前8時40分から始まり、12時30分に終わります。1日4時間の授業。
- (ロ) 学習する教科・科目は、全日制と全く同じですが、基礎的、基本的事項を中心に個性を尊重した分かりやすい授業をしています。
- (ウ) クラブ活動やホーム・ルームのほかに部活動もあり、軟式野球では、毎年上位の成績をあげ伝統があります。
- (エ) 修学旅行、遠足、球技大会など有意義で楽しい行事もあります。



寄附金を手渡す小山内さん(右から2人目)

村では、ピアノ購入費の不足分を、三月の補正予算で措置し、三月行われる十三保衛所の卒園式に使えるように、購入することにしています。

このお金は、昨年十二月二十日、千津子さんの夫光義さんが、栃木県で急逝した際の香典返しとして十万円、十三保衛所母の会の会費の中から八万一千円を寄附したもので手渡しました。

ピアノ購入費の一部に
と十八万二千円を寄附
十三地区の小山内千津子さんと十三保衛所の会(小山内千津子会長)では、「十三保衛所のピアノ購入費の一部に役立てよう」とのことで役場を訪れ、工務役とほど目録を話し、十八万一千円を

新農業委員決まる 11人が無投票当選

任期満了に伴う市浦村農業委員会委員選挙は、2月11日告示され、定数11人に対し11人が届出、無投票により次の方々が当選となりました。

- 当選者は、次のとおりです。
(順不同)
- 佐藤 孝治 (39) 相内・無現
 - 伊南 義道 (54) 磯松・無現
 - 白川 浅次郎 (74) 十三・無元
 - 佐藤 輝治 (44) 相内・無新
 - 武田 勲 (41) 太田・無新
 - 相沢 治 (43) 磯松・無現
 - 竹谷 友三郎 (64) 磯松・無現
 - 青山 喬 (48) 太田・無新
 - 山田 進 (52) 相内・無元
 - 三和 隆 (48) 相内・無現
 - 岡本 兼四郎 (64) 相内・無現



孫と一緒に風あげを楽しみに絵筆をとる会員。

子供たちとのふれあいに
「タコ絵教室」
連合会

タコあげ大会を計画

市浦村老人クラブ連合会
(成田水吉会長では、一月十
七日午前十時から、基幹集落
センターに四十人の会員を集

めて「タコ絵教室」を開きました。
「タコ絵教室」は、同連合会が年一回、岡田忠一(中里町・内海中学校教諭)を講師に招き、三年前から実施しているもので、今回は総仕上げの教室。
村内各地区から、絵筆やカッター等を持って集まっておじいさんやおばあさんらは、岡田先生指導を受けて熱心にタコ絵の仕上げに取り組みました。
同連合会では、これから地区老人クラブで更に教室を開き、今回参加できなかった仲間へ指導するほか、子供たちとのふれあいを深めるため、「タコあげ大会」を行うこととしています。



2月17日、選挙会が開かれ柏谷美智雄選挙委員長から当選証書が交付されました

融雪期の 事故防止

道路には、まだ雪がうす高く積まれ、交差点などでの見通しが非常に悪くなっています。これから三月にかけて、徐々に雪溶けはじまり、雪国ならではの悪路となります。
(特に、冷え込みの激しい朝夕などは、路面が凍結し思わぬアクシデントに遭うなど、危険も多く、わだちにハンドルをとられての接触事故などが多くなります。道路状況を十分に見極めて安全第一の運転心がけましょう。)

— 釜木警察署、十三・相内警察官駐在所 —

窓の戸籍

こいのちは赤ちゃん

秋田谷重春さん(相内)長男 智也ちゃん(7ヵ月)
お母さんは「あぶないよ」というけれど、ハイハイできて、ボクうれいんだ。



- 今野 洋子(十三) 忠教
- 鳴海 陽輝(相内) 武和
- 葛西 浩三(三脇) 元
- 平山 透五(五所川原)
- 佐藤 信子(相内) 内
- 秋田谷 龍吾(相内) 内
- 太田 牧子(小泊) 内

- 三和 歩(相内) 鋭敏
- 中島 佳世(十三) 博逸
- 成田 来孝(磯松) 豊
- 萬谷 彰香(脇元) 豊
- 三和 千鶴(相内) 公
- 新藤 琴絵(相内) 智儀雄
- 西澤 留美(脇元) 春夫
- 葛西 敬三(脇元) 武和

ご結婚

- 小山内 光義(十三) 38歳
- 安保 ツマ(相内) 82歳
- 秋月 カド(十三) 74歳
- 吉田 ヨリ(相内) 84歳
- 三和 ユキ(相内) 84歳
- 浜田 嘉市郎(相内) 95歳
- 相坂 永太郎(十三) 72歳
- 越野 与三郎(桂川) 76歳

おみやげ

- 野原 岩一(富山)
- 土岐 美智子(太田)
- 三浦 江梨子(東京)
- 落合 和彦(東京)
- 岡本 孝子(相内)
- 秋田谷 賢逸(桂川)
- 提中 久栄(相内)
- 三浦 金逸(相内)
- 藤田 美智子(五所川原)
- 三浦 国明(相内)
- 野呂 知子(藤崎)
- 朝倉 是好(青森)
- 梶浦 美智子(十三)